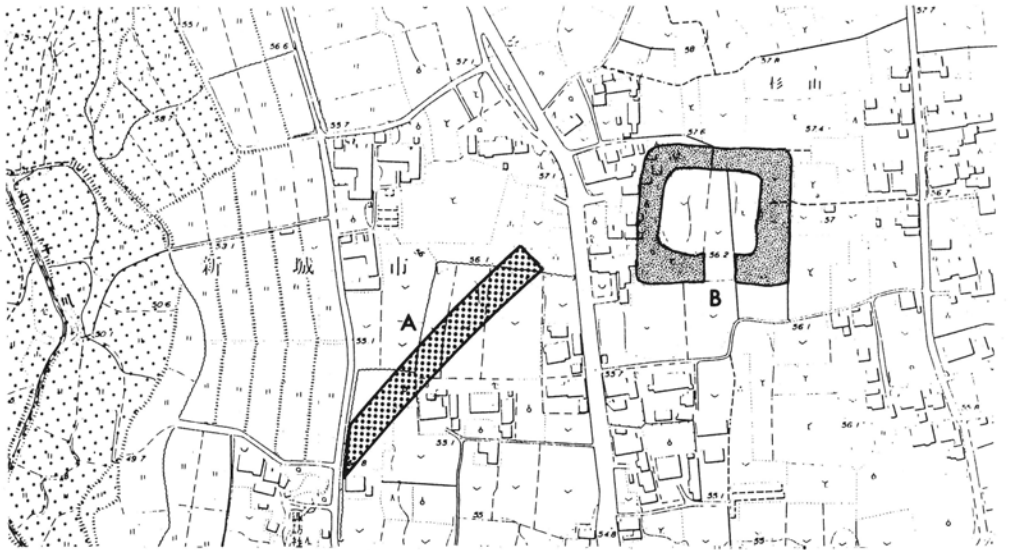


杉 山 遺 跡

調査の経過： 杉山遺跡は、新城市杉山字杉山地内に所在し、豊川中流域右岸に展開する河岸段丘の中位段丘上に位置する。標高は約56mを測る。国道151号線バイパスの建設工事に伴う事前調査として、昭和61年度はA・Bの2調査区2300㎡を調査し、今年度はB区の西側の隣接部1000㎡の調査を実施した。(第2図)

遺構： 出土遺物・遺構は、O期：縄文時代 I期：奈良時代 II期：室町時代(15・16世紀) III期：江戸時代 IV期：19世紀代(幕末～明治期)の5時期に大別される。O期：遺構は未検出 I期：竪穴住居1棟を検出する。(SB01) 柱穴は未検出で無柱穴と考えられ、貯蔵穴と思われる土坑が南西隅にある。竈は発掘区外の北辺にある可能性が高い。同時期の遺構が認められないため単独か、あるいは、集落の外縁部に位置する住居と推定される。II期：調査区中央部に一連の溝が検出された。61年度の調査において、杉山端城との地割あるいは時期の関連から、当時の「屋敷地」を区画したと推測される溝である。現地表面の畑地の角に対応して方向転換し、現在の土地区画とも比較的一致している。IV期：調査区南半分に5基の方形土坑と、中央部の小土坑群が検出された。方形土坑は、長辺が約0.5～1m、深さは約0.3～0.7m程度である。V期：調査区南半分のほぼ東西南北方向に交差する一連の溝、および、2棟の掘立柱建物がこの時期に属す。溝は3時期に細別されるが、大きな時期差はなく、現地表面の土地区画と部分的に一致する。掘立柱建物は溝の廃絶以降の時期で、柱穴は、素掘りと底に礎石を置くものが混在する。SB02は、1回

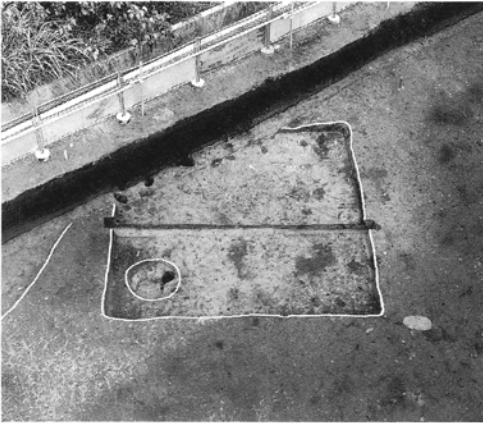


年報杉山遺跡 第1図 調査区位置図 1/50000

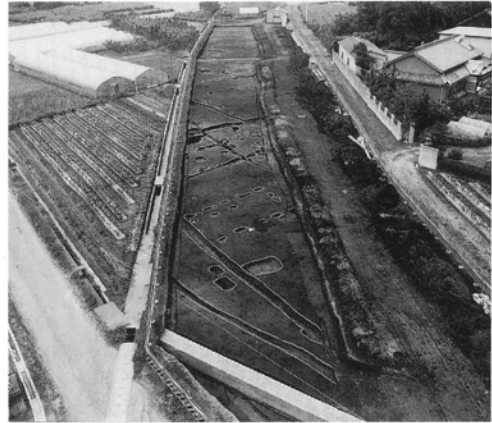
A 杉山遺跡調査区 B 杉山端城跡

建て替えられており、S B03と同時存在と推定されるが、いずれも規模・構造から住居とは考えない。

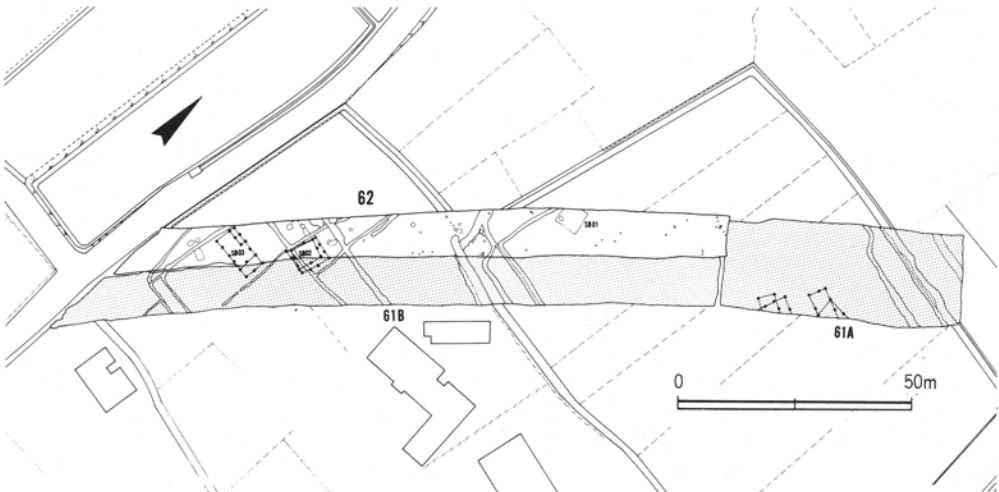
遺物 O期：時期不明の数点の土器と打製石斧を検出している。I期：住居跡内の土坑より、須恵器数個体分が出土した。III期：溝より鉄釉陶片が少量出土している。IV期：各方形土坑より土師皿が出土している。最南の土坑からは土師皿とともに、寛永銭7点が検出されており、これらは形状から墓坑の可能性が高い。また、小土坑内からは寛永銭、鉄器片・陶器類が出土している。V期：S B02南側を中心とする溝より、19世紀中頃と考えられる陶磁器・土師器（鍋・皿）等の日常雑器・雑貨類が出土している。出土状況から廃絶時に一括して投棄したものと考えられる。今回の調査では、杉山端城に関連する新たな遺構は検出されなかったが、8世紀代の集落の存在を示す遺構を確認したことにより、同様の遺構を検出した諏訪遺跡との関連について検討が必要となった。（酒井俊彦）



S B01 (南より)



調査区全景 (南より)



杉山遺跡 第2図 遺構配置図 1/1600